

## 1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	多様性を認め合い、つながりを実感する人権教育の推進
----------	---------------------------

### ○調査研究のテーマを設定した目的

当校は徳島県西部のつるぎ町にあり、豊かな自然に囲まれた全校生徒68名の小規模校である。生徒は礼儀正しく、清掃活動やボランティア活動にも積極的に取り組むことができ、落ち着いた生活態度で学校生活を送っているが、中には、コロナ禍の影響を含む様々な要因により不登校傾向の生徒もいる。

また、これまで人権学習に取り組んできた結果、生徒の人権意識は確実に高まってきているものの、人権問題を自分自身の問題と捉えきれていないため、日常の身の回りにある問題に気付かず、自分や周りの人の人権を大切にできない場面も見られる。そこで、当校では、一人一人が多様性を認め合い、尊重し合えるような取組を進めてきた。

当校は、令和4年度に徳島県教育委員会「多様性を認め合う人権教育推進協力校事業」の研究指定を受け、「同和問題」「外国人」等、喫緊の人権課題の解決に向けた取組の充実を図ってきた。令和5年度はその研究をさらに推進し、未来の社会を生きる生徒が自己を認め合い、周りの人となつなぎ、生活していく中で、多様性の大切さを認められる態度を養いたい。

また、つるぎ町は安全・安心な暮らしやすい町づくりを推進している中、過疎化が大きな課題となっている。生産年齢人口は全国平均を下回り、老年人口は全国平均を大きく上回っている超高齢社会の地域である。このような危機的な状況に対応するため、今後、外国人労働者の受け入れと、それに伴う、多様な人と共存していく社会への転換が予想される。外国に行かなくてもグローバルな社会は身近なものとなり、次代を担う子どもたちは、多様な人々と一緒に生活していく機会が増えることとなる。SDGs(持続可能な開発目標)が掲げている17の国際目標は、世界全体の目標であると同時に、つるぎ町に住む生徒自身の目標でもある。その中に含まれる人権課題を自分自身と結び付けて考えさせることにより自尊感情を高め、多様性を認め合い、周りの人となつなぎ、生活していく社会を築き上げる力を養いたい。

さらに、同和問題は多くの人々の努力によって解決に向けて進んでいるものの、未だインターネット上には差別的な書き込みが後を絶たず、以前よりも差別が見えにくいものになっている。将来、もしくはすでにインターネット上で出合っているかも知れない同和問題に対し、正しく判断し行動できるようにするためには、同和問題に対する正しい知識と、校区に被差別地域があるなしに関わらず誰にとっても自分自身の問題であるという認識をもち、問題解決に向けて取り組んでいくことは、自分や自分の大切な人の

幸せな生き方につながることを理解させる必要があると考えている。そのためには、SDGsなどの視点から自分自身と周りの人の違いを認め、大切にできる知識を身に付け、学んだことを行動に結び付けることができる実践的な人権教育を推進していきたい。

そして、人権問題を自分の問題として考え、あらゆる差別をなくし、SDGsの前文にある「誰一人取り残さない」「すべての人々の人権を実現する」社会をつくっていくために、自分にできることを考え、行動できる生徒を育成していきたいと考え、本研究テーマを設定した。

#### ○調査研究の概要

##### ①体験的な学習を重視した人権学習の研究

様々な人権問題に関する講演会やワークショップを開き、差別をなくしていこうとする意欲を高め、行動に結び付けることができる実践的な人権教育を推進する。

##### ②SDGsの視点からの人権学習の推進

多様性を認め合い、自分の周りの人たちとつながり、自分の大切さとともに他の人の大切さを認める態度を養う。

##### ③人権が尊重される環境づくり

地域や学校など様々な場所や場面で人権に配慮した環境づくりに努める。

## 2. 基本情報

### 研究指定校の概要

○学校名

つるぎ町立貞光中学校

○これまでの研究指定等の状況

なし

○学級数

5学級（うち特別支援学級：2学級）

○児童生徒数（R.6.2.28）

全生徒数：68名

○URL

[https://school.e-tokushima.or.jp/jh\\_sadamitsu/](https://school.e-tokushima.or.jp/jh_sadamitsu/)

○指定理由

つるぎ町では、家庭や地域に「つるぎ町人権条例」を周知し、町民と一体となった人権教育・啓発を推進している。特に子どもたちに対して、人権擁護委員等と協力しながら紙芝居など様々な啓発活動を行うなど、町と学校、地域が連携し人権教育・啓発に取り組んでいる。

貞光中学校は、令和4年度県教育委員会「多様性を認め合う人権教育推進協力校事業」の指定を受け、多様性を認め合い、つながりを実感できる人権教育の推進・充実に向けて研究に取り組んできている。これまで小規模校の特性を生かし、多様な講師を招聘した学習や様々な体験活動など学習形態を工夫して、学校教育全体を通じて人権教育を推進している。生活アンケートの結果からも、生徒の人権意識の高揚が窺える。

しかし、アンケートでは生徒の自尊感情が低い結果も出ており、加えて、地域の過疎化の問題は生徒の将来にも大きく関わっているため、SDGsの視点を取り入れた人権教育の推進こそが最重要な課題であると考えている。また、同和問題に関しては、被差別地域のあるなしに関わらず、同和問題のない学校は存在しないという認識に立つとともに、将来、またはすでにインターネット上で出合っているかもしれない同和問題を正しく理解し、行動できる生徒の育成をめざし、実践を積み重ねている。

令和5年度は、令和4年度の研究をさらに発展させ、人権教育の推進を図るとともに、研究成果を研究発表会等で広く普及することで、県内人権教育の一層の充実及び発展が期待できるため、貞光中学校を指定することが最適であると考えている。

○取り組んだ人権課題について

該当するものに○印、最も主要な人権課題1つに◎印を付与

①子供	○
②女性	○
③高齢者	○
④障害者	○
⑤ <u>同和問題</u>	◎
⑥ <u>アイヌの人々</u>	○
⑦ <u>外国人</u>	○
⑧- 1 HIV 感染者等	○
⑧- 2 <u>ハンセン病患者等</u>	○
⑨刑を終えて出所した人	○
⑩犯罪被害者等	○
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	○
⑬性的指向、性自認	○
⑭ その他（災害時における人権問題）	○

### 3. 調査研究の内容等

#### ○調査研究の内容

人権学習で学んだことを自分自身の問題と捉えさせることにより、自分や周りの人の人権を大切にできる実践力が育つと考える。

また、つるぎ町の抱える問題を SDGs の視点から考えると、多くの共通点があり、生徒への生活アンケートの結果からは、自尊感情が低く、自分に自信がもてない生徒が多いことが明らかになっている。

そこで、次の3点を柱として研究を進めることとした。

- ①体験的な学習を重視した人権学習の研究
- ②SDGs の視点からの人権学習の推進
- ③人権が尊重される環境づくり

#### ○実施方法

##### ① 体験的な学習を重視した人権学習の研究

・人権問題の当事者と直接またはオンラインを通して出会う機会を設定することにより、差別の不当性を理解し、人権問題を自分の問題と捉え差別をなくしていこうとする意欲を高め、行動に結び付けることができる実践的な人権教育を進めた。主に学年ごとに人権講演会を設定し、その内容をもとに学習を深め、生徒の書いた感想を保護者に読んでもらい、それについての感想を書いたものを保護者向けの新聞に掲載して共有を図った。

・1学年の「ジュニアボランティア寺子屋」の取組の中では、障がいがある人や高齢者の気持ちに寄り添い、体験型学習活動を通して自分にできることを考えさせ、タブレットを使用したまとめ学習を、学年・学級通信やホームページに公開した。高齢者施設の訪問や、体験を行い、高齢者の立場に立って学習を深めることができた。

・2学年の「防災学習」では、リモートによる被災体験者の講演会を実施し、すべての人の命を守る視点から災害時における人権問題について考えさせることにより、すべての人が大切にされるべき存在であることを確認させた。県立防災センターの訪問や地域防災訓練で2年生がリーダーとなって活動することを通して、災害時に取るべき行動についても考えを深めることができた。また、特別支援教育とインクルーシブ教育についてそれぞれの特徴や課題について学び、障がいのある人とどのように関わるのか考えを深めることができた。

・3学年では、結婚差別について当事者から体験を含めた講話を聞き、自分自身の生き方について考えさせ、タブレットを使用してまとめ、校内人権講演会で発表したり、学年・学級通信やホームページに公開したりした。識字学級生徒の交流で共有した「差別をなくす仲間になる」という言葉を大切にしながら、結婚差別をはじめとした部落差別を

許さない気持ちを共有し、授業の中で生徒たち自身が抱えるつらさや悩みを告白し、周りの級友からそれを支える発言を聞くことができた。

## ② SDGs の視点から、「誰一人取り残さない」「すべての人々の人権を実現する」人権の理念についての学習の研究

- ・多様性を認め合い、自分の周りの人とつながり、自分の大切さとともに他の人の大切さを認める態度を養った。障がい者・高齢者・性的マイノリティ・外国人などさまざまな立場の人が生きやすい社会をめざして学びを重ねていった。

- ・ジェンダーについて理解を深めた。

- ・LGBTQ+についての学習を進めた。全校で、LGBTQ+についての講演会を開き、その中で当事者の方から直接思いを聞き、理解を深めることができた。来年度は男女混合名簿に変更したり、女子の制服にスラックスを選択肢として加えたりなど、すべての生徒が過ごしやすい学校をめざして取り組んでいった。

- ・不平等や差別をなくし、平和な世界を実現するための実践力を養った。

- ・つるぎ町で生活している自分たちの抱える問題について知り、その問題は SDGs の掲げる 17 の国際目標と重なる部分が多く、自分の身近な問題であるということに気付かせた。人口減少や高齢化・外国人労働者の増加による多様化など身近な問題として考えることができた。

- ・世界が抱える問題と自分が抱える問題が共通していることから、世界と自分とのつながりを実感させた。イタリアとのオンライン会議を通じて、障がいのある生徒との関わり方など、国を超えて課題を共有し、解決に向けて考えることができた。

- ・総合的な学習の時間における「職業体験」の際に、SDGs に対する理解を深めるとともに、「ビジネスと人権」の視点とも関連付け、キャリア教育と人権教育を結び付けた。

## ③ 人権が尊重される環境づくりの研究

- ・教室環境、掲示物など、人権に配慮した環境づくりを進めた。

- ・ICT を効果的に活用した学習を進めた。1人1台端末を活用して意見を共有したり、アンケートを行ったりなど、活用の幅を広げることができた。

- ・教職員間で人権教育に関する情報、人権学習の取組についての情報交換を密に行った。

- ・教職員の人権意識を高め、人権学習の指導力を向上させる効果的な研修を進めた。

- ・学校独自の各種表彰などで、生徒の活躍を賞賛し、自尊感情を向上させた。

- ・朝の清掃ボランティアや各委員会活動・係活動などで、成就感や自己有用感をもたせた。

- ・常に教職員がポジティブ行動支援（PBS）を意識して指導にあたり、望ましい行動に対する賞賛や承認を通して、主体的に適切な行動ができる力を身に付けさせた。今後も授業や様々な活動の中で、PBS を意識した取組を続けていく。

- ・保護者への啓発として「人権フォーラム新聞」を配布することで、生徒の学びを保護

者と共有し、家庭内で学びを深めた。保護者の理解を得るとともに、生徒の知識や人権についての考えを深めることができた。

#### 4. 検証・評価・改善・普及

学校評価アンケート、全国学力学習状況調査（質問紙）、Q-Uテスト、単元前後のアンケート（測定指標）の実施結果から生徒の意識の変容を検証し、自尊感情、自己有用感、人権意識、人権感覚などについて評価を行った。特に、自尊感情、自己有用感について当初は低い傾向が見られたが、取組により向上が見られた。

・「生活記録」の日記や、人権学習のワークシート、学習時の発表の状況、人権講演会の感想文、学校生活の様子などから、生徒の考えや態度の変容を検証した。教師と生徒・生徒同士の信頼関係が深まり、自分自身のことについて授業の中で語る生徒もあり、その発言を支える他の生徒の発言が続き、仲間としてのつながりの深まりを確認することができた。

・研究授業後の授業研究会で教職員相互の授業評価を積極的に行い、授業改善につながった。教職員も自己研鑽を重ね、当校の成果を上げた。

・事業実施による成果、課題、取組の様子、生徒の感想などを学年通信、ホームページなどから保護者や地域へ発信し、啓発した。

・学校の人権学習で学んだことを、生徒自ら家族に伝え、保護者が人権について考える機会を設けた。人権フォーラム新聞の取組の中で、保護者が人権感覚を高めることができ、それが生徒のさらなる成長につながった。

## 5. 人権教育に係る年間指導計画

### 4. 人権学習指導計画

#### <第1学年>

月	資料名 (出典)	教科等	個 人 別 学 習 の 目 標	S D G s の 目 標	ねらい	☆"あわ"人権学習 ハンドブック ★第三次取りま とめ実践編	評価
4	それがにげん (わたしの願い)	学活	人権の概念	10	人として当たり前の願いがふみにじられることが人権侵害であることを学ばせ、差別や偏見のない生き方をしようとする態度を育てる。	☆4～6 20～25 ★27～29 58～62	全ての人の基本的人権尊重が侵害されてはならないということを理解できたか。
	教科書無償運動に学ぶ (わたしの願い)	道徳	同和問題	10	多くの人々の団結やつながりが教科書無償運動を成功に導き、暮らしやすい社会の実現に結びついていることを理解させる。	☆82～91	教科書無償運動が、多くの人の幸せを願う取組だったことに気付くことができたか。
5	ユニバーサルデザインって何？ (わたしの願い)	学習の時間	障がい者	10	障がいのある人や高齢者が便利に生活できる社会は、全ての人にとって過ごしやすい社会であることを知る。	☆72～81 ★49	障がいのある人や高齢者にとって便利な社会が、全ての人にとって過ごしやすい社会であることを気付けたか。
6	メガネと補聴器 (わたしの願い)			11	違いを認め合うことが、全ての人が生きやすい社会につながることを理解させる。	☆82～91 ★5, 51～62	違いを認め合うことは、全ての人が生きやすい社会につながることを理解できたか。
7	迷信と部落差別 (わたしの願い)	学活	同和問題	10	迷信やうわさが偏見や差別につながることを理解し、迷信やうわさに惑わされず、自分で考え正しく判断し、行動していこうとする意欲を高める。	☆82～91 ★5, 51～62	科学的根拠のない迷信や占い、うわさを信じるのが偏見や差別につながることを理解することができたか。
9	日本の人権獲得の歴史 (わたしの願い)	道徳	同和問題	10	部落史について正しく学び、被差別部落の人々が伝統文化や社会の発展に貢献してきたことを知る。	☆82～91 ★50	被差別部落の人々が伝統文化や社会の発展に貢献してきたことを理解することができたか。
10	命の尊さ ～生まれてくるあなたへ～ (あわ人権学習ハンドブック)	学活	生命の尊重	10 3	自分の誕生が、家族や周りの人たちの大きな愛情によって支えられていることに気付かせ、命の大切さについて考えさせる。	☆28～29 ★35	自分が周りの人たちの大きな愛情によって支えられていることに気付く、自分や周りの人たちの命の大切さについて考えることができたか。
	人の値うち (わたしの願い)	道徳	同和問題	10	身近な生活の中にある偏見や差別意識があることに気付かせ、自分の生活を振り返って考えさせる。	☆82～91	自分たちの生活の中にある偏見や差別意識に気付くことができたか。
11	寂しさの影に (わたしの願い)	学習の時間	高齢者	10 11	高齢者の思いや願いを理解し、高齢者とのようにかかわっていくことが大切なのかを考えさせる。	☆62～71 ★18, 47, 49	高齢者の思いに寄り添い、高齢者とのように関わっていくことが大切なのかを考えることができたか。
12	アニメ「めぐみ」 (DVD資料)	道徳	日本人拉致	10 16	日本人拉致問題について知り、人間の尊厳が守られていない明白な人権の侵害であることに憤りを持たせる。	☆156 ☆プラス5～7	日本人拉致問題が許されない人権の侵害であることを理解できたか。
1	自分以下を求める心 (わたしの願い)	道徳	子ども	10	あらゆる差別につながる自分以下を求める心が自分にもあることに気付かせ、身近な差別を見逃さない人権感覚を養う。	★43	自分自身の生活を振り返り、自分の心に真剣に向き合うことができたか。
2	情報モラル (新しい道徳)	学活	インターネットによる人権侵害	10	自分の発する言葉を受け取る他の人がいることに気付かせ、インターネット社会におけるよりよいコミュニケーションのあり方について考えさせる。	☆142～151 ★55～56	インターネットによるさまざまな人権侵害について考え、正しいインターネットの使い方を理解できたか。
3	性の多様性と人権 (わたしの願い)	道徳	性的マイノリティ	5	性的マイノリティの人たちの思いを知り、性の多様性を理解させ、自分や周りの人の人権を大切にすることを意識を高める。	☆14 152～153 189	性的マイノリティの人たちの思いを知り、性の多様性を理解することで、自分や周りの人の人権を大切にすることを意識を高めることができたか。

<第2学年>

月	資料名 (出典)	教科等	個別 学習の テーマ	SDGs の 目標	ねらい	☆"あわ"人権学習ハ ンドブック ★第三次取りまとめ 実践編	評価
4 5	沖繩戦のこと (わたしの願い) さとうきび畑の唄 (DVD)	学習の 時間	総合的 な	平和と 命	戦争は人権侵害の最たるもので、 かけがえのない命を奪ってしまうだ けでなく、人間が人間らしく生きる 権利を奪ってしまうことに気が付か ず、平和な社会を築いていくため に、自分ができることについて考え させる。	☆28～29 ★35	戦争は最大の人権侵害である ことに気づき、平和な社会 を築いていくために自分に何 ができるかを考えることが できたか。
6	この子を残して	学習の 時間	総合的 な	平和	戦争で亡くなった人たちの思いを 知ることによって戦争の悲惨さを理解し、 平和を守っていくために、自分にで きることを考えさせる。		戦争の悲惨さを理解し、平 和を守っていくために、自分 にできることを考えられたか。
7	国際交流学習を通し て	学習の 時間	総合的 な	外国 人	障害のない人だけに視点を当てた 社会には、障害のある人にとって不 便なことがたくさんあることを知 り、障害者の自立を支援する方法を ともに考えていく。	☆72～81 ☆102～111	積極的に交流活動に取り組 む。交流を通して自分自身 の価値観を見直していくこと ができたか。
	手紙 ー夕やけがうつくし ー (わたしの願い)	道徳	道徳	同和 問題	部落差別によって文字を奪われた 人々が文字を取り戻すことによっ て得たものについて考えさせ、差別 解消のために行動していこうとす る態度を養う。	☆82～91	文字を奪われた人々の思い に共感し、差別解消のために 行動していこうという思いを もつことができたか。
9	インターネットと人 権 (わたしの願い)	学活	トイ ンター ネット 侵害 人権	10	インターネット上での人権侵害の 実態を知り、人権に配慮した正しい 使い方をすることの重要性について 考えさせる。	☆142～151 ★55～56	インターネットによる様々 な人権侵害について知り、正 しいインターネットの使い 方を考えることができたか。
10	日本の人権獲得の歴 史 (わたしの願い)	道徳	道徳	同和 問題	部落差別解消のため、仲間と共に 立ち上がった人々の生き方を学び、 自分ができることを行動に移してい こうという意欲をもたせる。	☆82～91 ★50～51	部落差別解消のため、仲間 と共に立ち上がった人々の思 いに共感し、自分ができるこ とを行動していこうという意 欲をもつことができたか。
11	阪神大震災の被災地 から寄せられたニーズ から、人権について 考える (わたしの願い)	道徳	災害 問題 人権 問	11	震災時のニーズや権利の優先性 について考えると、被災地から 寄せられたニーズ自体が人権であ り、人間らしく生きていくために不 可欠なものであることを理解させ る。	☆プラス8～16 ★36	震災時の権利や優先性につ いて考え、生きていくために 不可欠なものが人権である ということが理解できたか。
12	ちがいのちがいの 自分らしさを 大切に (性の多様性を理解 するために (教職員 用ハンドブック))	道徳	道徳	性的 マイ ノリ	性的指向や性自認について理解し、 ちがいを認め合っていこうとする意 欲を高める。また、性別にとらわれ ず、生活していこうとする態度を育 てる。	☆14 152～153 189	性的指向や性自認について理 解し、ちがいを認め合ってい こうとする意欲がもてたか。ま た、性別にとらわれず、生活 していこうとする思いをもつ ことができたか。
1 2 3	中学生のみなさんへ ～ハンセン病と私～ (わたしの願い) ハンセン病患者の人 権 (“あわ”人権学習 ハンドブック)	総合的 な学習 の時間	総合的 な	ハン セン 病 回復 者	政治的な隔離政策や無関心がハン セン病への差別や偏見を生んだこと を理解し、ハンセン病回復者の願 いや思いについて知る。	☆119～123	ハンセン病に関する差別は 間違った政策や無関心が生ん だことを理解し、ハンセン病 回復者の願いや思いを知るこ とができたか。
	しがまっこ溶けた (金正美)				力強く生きる桜井哲夫さんとその 家族や金正美さんの行動を通して、 ハンセン病患者に対する理解を深 め、自分の生き方を考える。	☆119～123	ハンセン病に関して正しく 認識し、ハンセン病回復者の 願いや思いについて考えるこ とができたか。

<第3学年>

月	資料名 (出典)	教科等	テーマ 1字・別 字・音 の通 的課	個 人 の 選 別 の 課 目 S D G s	ねらい	☆"あわ"人権学習 ハンドブック ★第三次取りまとめ 実践編	評価
4	性的マイノリティの人の思いを感じよう ー性の多様性を理解するためにー(教職員 採用ハンドブック)	学活	性的 マイノリ		性的指向、性自認について理解し、人はみんな違ってあたりまえだということに気付かせる。	☆14 152~153 189	性同一性障害の人に対する偏見をもつことなく、人はみんな違ってあたりまえだということに気付くことができたか。
5	インターネットによる人権侵害 (“あわ”人権学習 ハンドブック)	学習の時間 総合的な	にイン ターネ ット		インターネットの広く普及した実態からその利便性と危険性を知り、個人情報を守り、人権に配慮したインターネットの正しい使用の仕方について考える。	☆142~151 ★55~56	インターネットの利便性と危険性について考え、人権に配慮した正しい使い方について理解することができたか。
6	許せない就職差別 (わたしの願い)	学活	同和問 題		差別を生む社会構造について考えさせ、差別をなくす取組が、統一応募紙の改善につながってきたことを理解させる。	☆82~91	差別を残してきた社会の構造について知り、統一応募紙の改善が自分たちにどんな関係があるのかを考えることができたか。
7	部落地名総鑑について (わたしの願い)	学活	同和問 題		「部落地名総鑑」は差別を売り物にする図書で、それでも買う人や利用する人が存在することに憤りを感じさせ、自分は利用しないという強い気持ちをもたせる。	☆82~91	「部落地名総鑑」等、差別を売り物にしたり、買う人が存在することに憤りを感じ、自分は利用しないという思いをもつことができたか。
9	幸せのカタチ「家」 (わたしの願い)	学活	個人 の尊 重		かつての「家」制度の不合理性について考え、結婚する人たちの意思が尊重され、幸福な「家庭」を築くことが真の幸福であるということについて考えさせる。	☆82~91	結婚に対して不合理な事実が未だに存在することに対して憤りを持ち、本当の幸福について考えることができたか。
10	娘の遺してくれたもの (わたしの願い)	道徳	同和問 題		愛子さんと周囲の人たちの信頼関係や愛子さんと青年の生き方に共感させ、同和問題の解決に明るい展望を持ち、自分にできることをしていこうとする意欲をもたせる。	☆82~91	同和問題に明るい展望をもち、同和問題の解決のために自分にできることをしていこうという思いをもつことができたか。
11	峠 (私たちの道徳ふるさと教材)	道徳	同和問 題		差別に負けることなく、真実の愛を貫いた二人の姿が多く人の信頼関係を築き上げ、人権問題の解決につながっていったことに気付かせ、同和問題の解決に明るい展望を持たせる。	☆82~91	同和問題の解決に明るい展望を持ち、自分の生き方について考えることができたか。
12	面会 (わたしの願い)	道徳	犯罪被 害者等		犯罪被害者の方の心情に触れ、犯罪被害者やその家族の人権について考えとともに、生命を大切に育む態度を育てる。	☆132~141	犯罪被害者とその家族の人権について考えとともに、生命を大切に育む態度を育むことができたか。
1	DVD視聴「大切な心と体を守るために」 (文部科学省)	道徳	犯罪被 害者等		性暴力の例や背景を理解し、デートDV、SNS等で見えない相手とつながることの危険性について考えさせる。		お互いの気持ちを尊重し、望ましい人間関係を築こうとする態度を身に付けることができたか。
2	高齢者問題を考える ー「見守り介護」が ピンチをチャンスに 変えてくれたー (わたしの願い)	道徳	高齢者	  	高齢者の介護に関わる人々の思いにふれ、今後、自分自身のこととして考えるであろう高齢者問題について、どのように関わっていくことが大切なのかを考えさせる。	☆62~71 ★18, 47 49	将来自分たちも確実に高齢者になることや、高齢者を介護する立場になることについて、自分自身の問題として考えることができたか。
3	私は、負けない (わたしの願い)	道徳	障がい者		さまざまな違いをもった人と人が、共に自分らしく生きることのできる社会について考えさせる。	☆72~81 ★49	障がいのある人に対する見方・考え方を振り返らせ、自分の中の差別意識に気付くことができたか。

5. 教科等年間指導計画

<1年>

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
国語		シンシユン			大人になれなかった弟たちに… 鳥の花が降るころに		いじえの心にふれる		少年の日の思い出			
社会	人妻がたどった進化 縄文から弥生への変化	ヤマト王権と仏教伝来 律令国家を目指して	唐風から日本風へ変 わる文化			東アジアの交易と使節 琉球とアイヌの人々がつ つなく交易			明確して自立する民族	自然災害と防災への 取り組み		
数学					方程式							
理科		植物・動物のくらしとな かま							生きていく地球			
音楽	桜歌 空へ送ろう		アニー・ロバーリー	夏の思い出	赤とんぼ	明日を信じて		華曲「六段の調へ」	郷土のさまざまな民 謡	日本とアジアの声によ るさまざまな表現		
美術		人権ポスター	印象に残るシンボル マーク			生活の中の瓶き物			風神雷神	生活をいどうる文様		
保健体育		陸上競技	心身の発達と心の健康		ダンス	球技	剣道	心身の発達と心の健康 健康な生活と病気の予 防①		球技	健康な生活と病気の予 防①	
技術									ネットワークと情報モ デル			
家庭	食事の役割と中学生の栄養の補給					ふるさとの食品	地域の食文化		持続可能な食生活を 目指して			
英語	Welcome to JuniorHigh School	Now School, Now Friends Our New Teacher	Club Activities Friends in New Zealand	A Japanese Summer Festival	A speech about My Brother	Foreign Artists in Japan	A surprise Think Globally, Act Locally		Winter Vacation This Year's Memories			
道徳	風を感じて一歩上清加 のチャレンジ 明市の「おはようござい ます」 選手に選ばれて	自分の性格が大嫌いな いじめに当たるのはど れだろう 紫色のシャープペンシ ル	いのちって何だろう ふたつの心 心に郷土を刻もう	人権作文 権相が教えてくれること 薬毒号に乗って	山に来る資格がない 言葉え 新しいプライド	靴 「自分以下を求める心 「看護する」仕事	傍観者でいいのか いじめっ子の気持ち あなたはひかり	見沼に降る星	「どうせ無理」という言 葉に負けない 全校一を目指して 人の輝うち	桜に集う人の思い 火の鳥 短文投稿サイトに友達 の愚口を書くこと	白都の猪、集子の心 山岳民族の文化を守る	
特別活動	学級活動	中学生としてのスタート	中学生としての学習の しかた	自分のよいところを知 ばそう	健康で安全な生活	明るく楽しい学級 学校行事を盛り上げよ う	自分がなりたい職業へ の道	自分に合った勉強の 工夫	不安や悩みを乗り越え る	夢や希望を実現するた めに	中学生としての成長	2年生への決意
	生徒会活動	対面式 あいさつ運動			校内競技大会 生徒総会	真中祭			生徒会役員改選 生徒総会 校内球技大会			
	学校行事	入学式 交通安全教室	校内人権講演会 (性的マイノリティ)	七行式 西部ブロック総合体育 大会	校内人権意見発表会 卒業式	卒業式 避難訓練 真中祭	西部ブロック新人大会	地区駅伝大会 校内人権講演会 (同和同級)	終業式	始業式	地区新人駅伝大会	修了式 卒業式
総合的な学習の時間	オリエンテーション		YMCA宿泊学習	福祉体験事前学習	福祉体験学習	ふるさと学習			1学年人権講演会 (障がい者)			
家庭・地域との連携	家庭訪問 夜業参観 PTA総会 学年通信(通年)			校内人権意見発表会 三者面談	真中祭 福祉体験学習						卒業式	

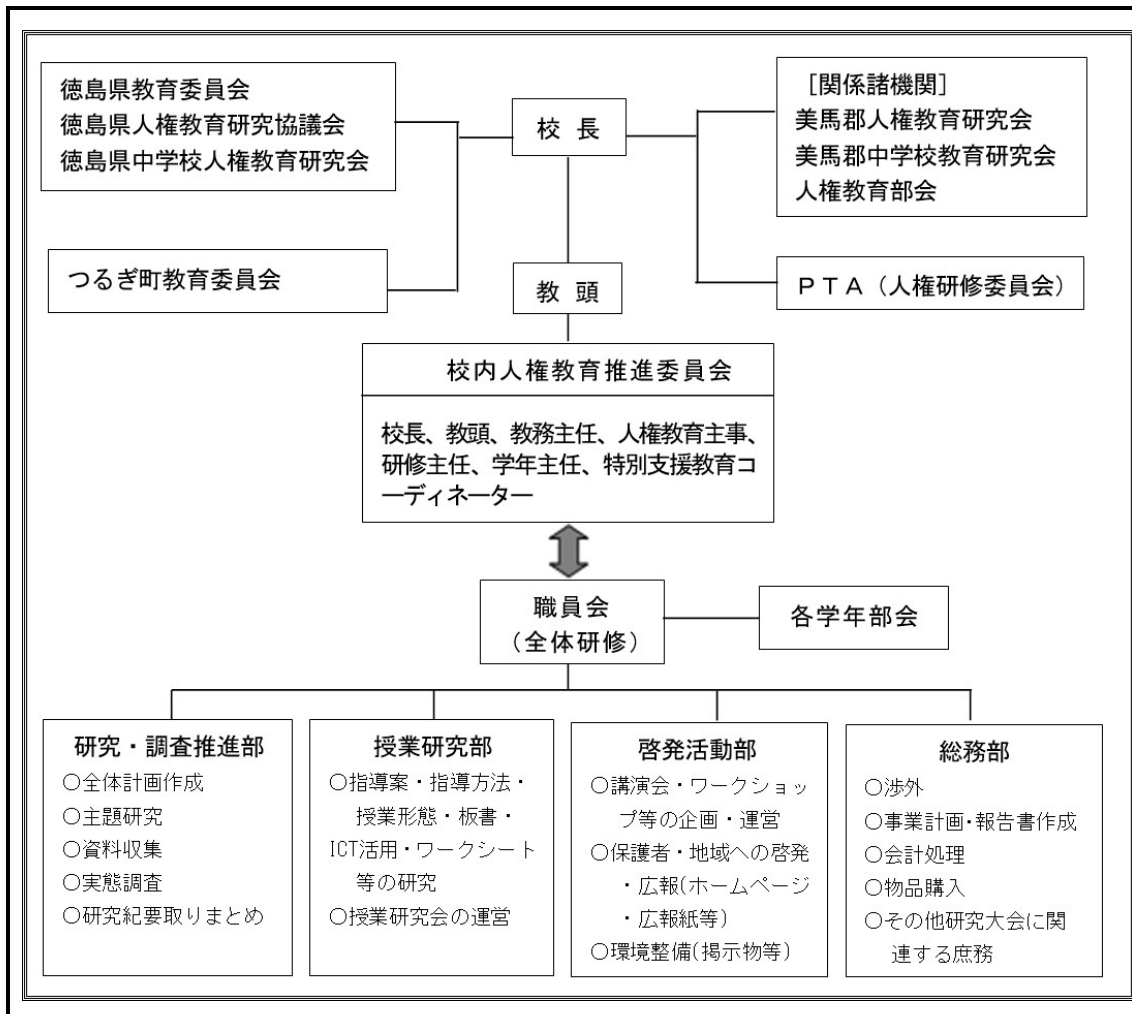
<2年>

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
国語	アイスプラネット			言葉の力	盆土蓋 字のない楽書	モアイは語る	いにしえの心を訪ねる		走れメロス			
社会		身分制社会での暮らし		日本の理毛城の生活	黒船来航の衝撃と開国	江戸時代の滅亡	人々から見た富国強兵と文明開化	生活文化の特色をとらえよう 自由と民権をもとめて			欧米の影響を受けた近代文化	
数学				選立方程式								
理科				生物のつくりとはたらき								
音楽	生命が弱ばたとき 語りあおう	You Can Fly! そよぐ風の中で	旅の歌			交響曲第5番 ハ短調			雅楽「鼓天楽」	都七の音楽や芸術	花の節	
美術		人権ポスター		メッセージを伝える	季節感のある暮らしを楽しむ					嵐で描く寒しさ	北斎からゴッホへ	
保健体育		矯正競技	健康な生活と病気の予防②		ダンス	球技	剣道	健康な生活と病気の予防②		球技	傷害の防止	
技術	生物育成											
家庭		日本の衣食文化	生活を豊かにするために				健康で快適な室内環境	災害への対策	持続可能な生活を目指して			
英語		Food Travels around the World	My Future Job		Homestay in the United States	Universal Design				World Heritage Sites	Pictures and Our Beautiful Planet	
道徳	四十七年に感謝をこめて あいさつ	はなしの女王 妹に 二つのいのちについて考える	私の思い出がない あの子のシンデレラ	人権作文 住みよい社会に	ゴール 左手でつかんだ音楽	遠足で学んだこと 震災の中で	祭りの夜 宝塚方至行き一四宮 北口駅一	心でいただく伝統の祭 私は十四歳	六千人の命のヒザ	赤土の中の真実 夜は人間以外のものの時間 人間の強さ・気遣い 本当の私	こめんね、おぼちゃん 冬の使者「マガン」	
特別活動	学級活動	オリエンテーション 学級目標	2年生の学習	温かな人間関係 心身の健康と安全	自分を高めるための工夫	学級生活の充実	中学生の心と行動 働くことと生きること	自分を生かす生き方	わたしたちの生徒会	学習の改善・工夫	わたしの進路計画 不安や悩みの相談と解決	1年間を振り返って
	生徒会活動	対面式 あいさつ運動			校内球技大会 生徒総会	員中祭			生徒会役員改選 生徒総会 校内球技大会			
	学校行事	始業式 入学式	校内人権講演会 (他約マイリテイ) 修学旅行	壮行式 西部ブロック総合体育大会	校内人権意見発表会 終業式	始業式 避難訓練 員中祭	西部ブロック新人大会	地区駅長大会 校内人権講演会 (同和問題)	終業式	始業式	地区新人駅長大会	修了式 卒業式
総合的な学習の時間	オリエンテーション 平和学習	修学旅行 平和学習	国際理解教育	職業適性検査 職業調べ学習	事業所調べ マナー講習	職場体験学習	わが町の防災について調べよう 2学年人権講演会 (災害時の人権問題)	SDGs17の目標 SDGs ～自分にできること～				
家庭・地域との連携	家庭訪問 授業参観 PTA総会 学年通信(通年)			校内人権意見発表会 三者面談	員中祭		地域防災訓練					

<3年>

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
国語	「獲手」			「高飛舟」	「政影」		いにしえの心を受け継ぐ	得るサルバトルの少女へスース紛争地の看護師				
社会	二度の世界大戦と日本	二度の世界大戦と日本 現在に続く日本と世界	現代につながる伝統と文化 人間を尊重する日本国憲法	民主政治を支える憲法 人間を尊重する日本国憲法		地方自治と住民の参加		労働と社会保険		持続可能な社会の実現		
数学						二次方程式						
理科	生物のふえ方と遺伝					宇宙の中の地球	科学技術と人間			自然と人間		
音楽	花	濡れソレントへ	ブルタバ（モルダウ）	組曲「農賢会の絵」から		時を超えて	オペラ「アイダ」			歌舞伎「勲章帳」	旗立ちの日に	
美術	わかりやすく情報を伝える	人権ポスター	ケルニカ明日への願い			心安らぐ場所をつくる		地蔵の魅力を伝える	今の自分、これからの自分			
保健体育		陸上競技	健康な生活と病気の予防③			演技		健康と舞臺		演技		
技術										情報社会と自己責任 私たちのよりよい生活		
家庭		家族・家庭と生活				幼児とのふれあい						
英語			Animal on the Red List	A Mother's Lullaby	Be Prepared and Work Together		A Legacy for Peace	Beyond Borders		A Graduation Gift from Steve Jobs		
道徳	言葉おしめ タンポポ作業所 無実の罪	ある日の午後から いじめから目をそむけない 殖生の宿	背番号15が染んだ道 背番号をのぼして ほくにもこんな「よいところ」がある	基調の心を伝えたい 花火と灯ろう飾し 早朝ドリブル	加山さんの願い 好きな仕事か安定か なやんでいる 紺ニービー	紺ニービーをめぐる やりとりの場面を やってみよう 合格通知 よみがえれ、日本海！	伝えたいことがある 受けつけられる思い 高く遠い夢	ライバル国士の友情 スーパースター 小平奈緒と宇根花 しあわせ お互いの「ちがいがい」 を認め合おう	足袋の季節 その子の世界、私の世界	その子 日本から世界へ、そして宇宙へ ヘインズ タントラマンの誕生 一冊の漫画雑誌	社会からの無言の責 負を感じる感性	
特別活動	学級活動	オリエンテーション 学級目標	上級学校観へ	目標をみざす確実な歩み	心と体の健康	高め合う学級	心の通い合う学級	価値ある青春	進路決定に向けて	受験期の健康	卒業にあたって	心をこめて
	生徒会活動	対面式 あいさつ運動			校内球技大会 生徒総会	貞中祭			生徒会役員改選 生徒総会 校内球技大会			
	学校行事	卒業式 入学式 身体測定	校内人権講演会 (性的マイノリティ)	壮行式 西部ブロック総合体育大会	校内人権意見発表会 卒業式 朝山登山	卒業式 遊龍訓練 貞中祭	進路説明会 美馬地区音楽会	地区駅伝大会 校内人権講演会 (同和問題)	卒業式	卒業式		修了式 卒業式
総合的な学習の時間	オリエンテーション	高校観へ	3学年人権講演会 (結婚差別) 朝山について	郷土に学ぶ (朝山登山)		性教育 ふれあい体教学習	命の大切さ	進路決定に向けて	就職差別 面接練習	面接練習		
家庭・地域との連携	家庭訪問 授業参観 PTA総会 学年通信（通年）			校内人権意見発表会 三者面談	貞中祭	進路説明会			三者面談	三者面談	卒業式	

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）



○関連資料

1. 学校教育目標

◎ 教育目標

人権尊重の精神に富み,変化の激しいこれからの社会を生きるための「確かな学力」,「豊かな人間性」,「たくましさ」をもった心身ともに健康な生徒を育成する。

◎ 校訓 「前進」

—夢をえがいて,その日その場を—

※「昨日の自分より一歩前進」をめざす。

◎ めざす生徒像

- 1 自ら学び自ら考え,主体的に判断する生徒 (自ら学ぶ生徒)
- 2 常に相手の立場に立って考え,行動する生徒 (思いやりのある生徒)
- 3 目標をもち,その日その場で全力で取り組む生徒 (全力投球する生徒)

◎ めざす教師像

- 1 生徒一人一人を大切に,教育に情熱を燃やす教師
- 2 研修に励み,教育 DX を積極的に推進し,授業改善に努める教師
- 3 地域や生徒の実態を踏まえて,理想を高く掲げ努力する教師

◎ 学校経営の方針

「人権尊重の精神に富み,たくましく魅力あふれる貞光中学校」をつくる。

- 1 「豊かな人権感覚」「確かな学力」「健やかな心身」をもった生徒の育成
- 2 「強い結束力」と「粘り強さ」のある職員組織

キーワード:「多様性」「SDGs」,「教育DX」

## < 人権教育目標 >

人権感覚を高め、誰一人取り残さない、多様な人権を尊重する社会の実現をめざす人権教育  
～仲間を大切に、多様性を認め合い、主体的に行動できる生徒の育成～

## 2. 本校の実態

### < 実態と課題 >

本校は徳島県西部のつるぎ町にあり、豊かな自然に囲まれた全校生徒 68 名の小規模校である。生徒は礼儀正しく、清掃活動やボランティア活動にも積極的に取り組むことができ、落ち着いた生活態度で学校生活を送っている。しかし、中には、コロナ禍の影響を含む様々な要因により不登校傾向の生徒もいる。また、これまで人権学習に取り組んできた結果、生徒の人権意識は確実に高まってきているが、人権学習で学んだことを自分自身の問題と捉えきれないため、日常の身の回りにある問題に気付かず、自分や周りの人の人権を大切にできない場面も見られる。

年に2回行っている生活アンケートで、「あなたは、人の心を傷つけるようなことをしたり言ったりしたことがありますか。」という問いに対し、1回目は「よくある。」「たまにある。」という回答が 8.1%であったが、2回目は 2.9%に減少した。それは、人権学習や様々な体験学習を通して自分の言動を振り返るとともに、自分も他人も大切にすることや仲間の存在を認められる集団に成長してきたからだと推測される。今後も、互いを大切に合える関係性や、安心して学校生活を送れる環境を維持するとともに、いじめや人権侵害に対して敏感に反応し、その解決に向けて何ができるかを考え実践しようとする生徒を育成していきたい。

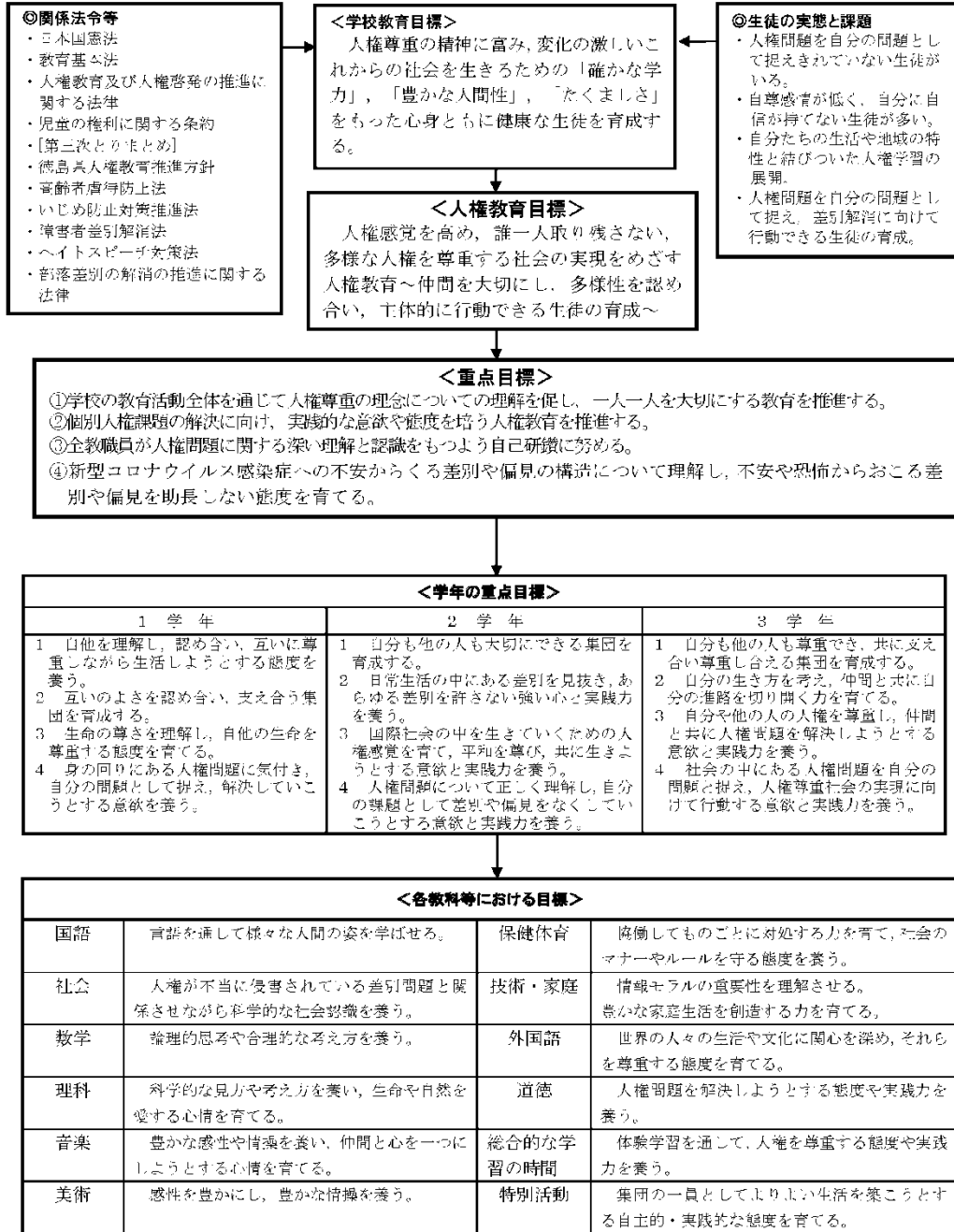
一方で、本校の大きな課題は、生徒の自尊感情が低いことである。生活アンケートの結果からも、「あなたは、自分の性格や長所を知っており、そんな自分のことを肯定的(それでいいと認めること)に見ることができていますか。」という問いに対し「いいえ。」「あまり思わない。」と回答した生徒は、1回目 28.4%、2回目 20.0%と減少傾向にはあるが、まだまだ自分に自信がもてない生徒が多く、自己有用感や他者から認められていると実感できる取組が必要である。

また、地域の課題として、安全・安心な暮らしやすい町づくりを妨げる過疎化の問題がある。生産年齢人口は全国平均を下回り、老年人口は全国平均を大きく上回っている超高齢社会の地域である。校区内には、高齢者が50%を超える限界集落も増えつつあり、将来は、日常生活に必要な物資を購入するための買い物に行くことさえ困難な人たちが増えてくることが予想される。今後、このような危機的な状況の対応策として、外国人の就労が増え、多様な人と共存していく社会になっていくことが予想される。すなわち、外国に行かなくてもグローバルな社会は身近なものとなり、次代を担う子どもたちは、多様な人々と一緒に生活していく機会が増える。

このような課題に直面したとき、2015年の国連サミットで掲げられた「持続可能な開発目標（SDGs）」は、我々が進むべき方向を示してくれているように思う。SDGsは、一見遠い世界の目標に見えるかもしれないが、ここで掲げられた目標を達成していかないと我々を含めて、人類の存在すら危うくなる。SDGsが掲げている17の国際目標は、世界全体の目標であると同時に、つるぎ町に住む生徒自身の目標でもある。その中に含まれる人権課題を自分自身と結び付けて考えさせることにより、自尊感情を高め、多様性を認め合い、周りの人とつながり、生活していける社会を築き上げる力を養いたい。

また、SDGsの前文にあるように、「誰一人取り残さない。」「すべての人々の人権を実現する。」社会をつくっていくために、これまで積み重ねてきた同和問題についての学習を更に深く学び、差別解消のために、家庭や地域と連携を図り、自分にできることを考え、学んだことを行動に移してしていける実践的な人権教育を推進していきたい。

### 3. 全体計画



## 6. 研修計画

月	研 修 内 容
4月	校内人権教育推進委員会 校内研修（本校の課題と解決策の共有） 校内研修（自尊感情について） 校内研修（年間教育の見直しと作成）
5月	校内研修（人権教育の進め方） 校内研修（保護者用人権フォーラム新聞について） 校内研修（指導案の書き方について） 校内研修（指導案の作成方法）
6月	人権講演会（全学年） 校内研究授業・授業研究会（1年・3年）
7月	校内人権教育推進委員会 校内研究授業・授業研究会（2年） 四国人権教育研究大会参加 校内人権意見発表会
8月	県人権教育・啓発夏期講座参加 大阪コリアタウンでのフィールドワーク 中人研大会指導案検討会
9月	校内人権教育推進委員会 校内研修（性的マイノリティ） 人権講演会（全学年）
10月	校内人権教育推進委員会 校内研究授業・授業研究会（全学年） 県人権教育研究大会参加 中人研大会運営委員会
11月	校内人権教育推進委員会 文部科学省指定人権教育研究発表会
12月	校内人権教育推進委員会
1月	県指定人権教育研究事業報告書作成 校内人権教育推進委員会
2月	校内人権教育推進委員会 校内研修（SDGsと人権） 部落解放・人権徳島地方研究集会参加
3月	校内人権教育推進委員会 校内研修（取組の振り返りと次年度の計画）